

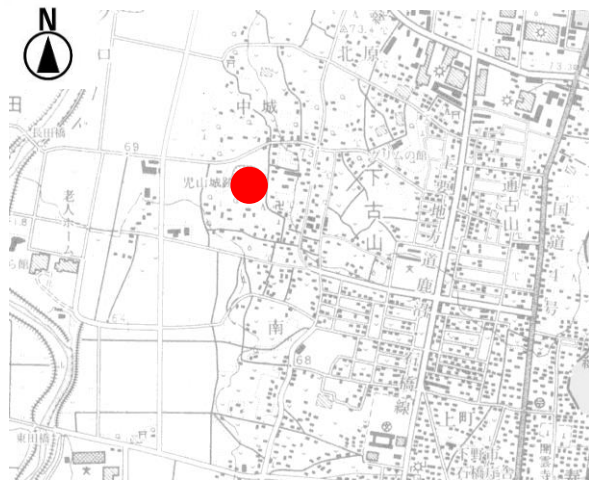
こやまじょうあと

児山城跡の発掘調査(H29)

—範囲内容確認調査—

【児山城跡の概要】 栃木県指定史跡(昭和36年5月6日指定)

児山城跡は、姿川東岸の台地端部に所在しています。自然の地形を巧みに利用した平城で、鎌倉時代の後期(約700年前)に多功城主(上三川町)、多功宗朝(むねとも)の次男朝定(ともさだ)により築城されたと伝えられます。城の遺構は本丸を中心に良く残っており、本丸の堀と土塁(どるい)はほぼ全周し、規模は東西約80m、南北約90mになります。土塁の四隅は他に比べ高くなっており、櫓(ろう)があった可能性があります。また、本丸周辺にも部分的に堀や土塁が残されており、地名として本城、西城、中城、北城、稻荷城等も残されていることから、児山城が複郭であり、かなりの規模の城郭であったと考えられます。平成28年度からは、範囲などを確認するための調査をおこなっています。



【発掘調査の概要】

平成28年度の調査では、本丸堀の形状が逆台形の箱堀(はこぼり)で、底面の幅は約11m、残存している土塁上面から堀の底までの高低差は約7mありました。堀の上面の幅は約20mあることも確認されました。

今年度は、本丸東側郭2の遺構状況と東側堀2の埋没状況を確認するための調査を実施しました(裏面調査位置図参照)。

郭2は、現況で上面が平坦になっていますが、児山城が使用されていた最終期には、東側堀2から郭2に登れないように土塁があったことが新たに分かりました。土塁は2回造り直されており、2時期目はひと回り大きく造り変えられていました。郭2の上面も土塁同様に2回の造り直しが確認されました。東側堀2は本丸東堀同様の箱堀で、底面幅は6mの範囲が確認できました。堀底面から郭2までの高低差は約3.6mあり、東側堀2の上面幅は約15mになると推測されます。

第1トレンチの調査状況より、前述した最終期の郭2が造られる以前は、この位置に堀状の遺構がありました。この堀状遺構を埋め戻して最終期の郭2を造っており、この時に城の構造を大規模に改修しています。

第3トレンチ付近は土塁が確認できず、第1トレンチと状況が違います。また、第1トレンチで確認した下層の堀状遺構が確認できないため、堀状の遺構はこのトレンチ手前で、曲がるか終わると推測されます。

今年度の調査では、下層の堀状遺構の規模が分からなかったため、堀を造り変えた状況や時期を確定させるため、継続調査を実施する必要があります。



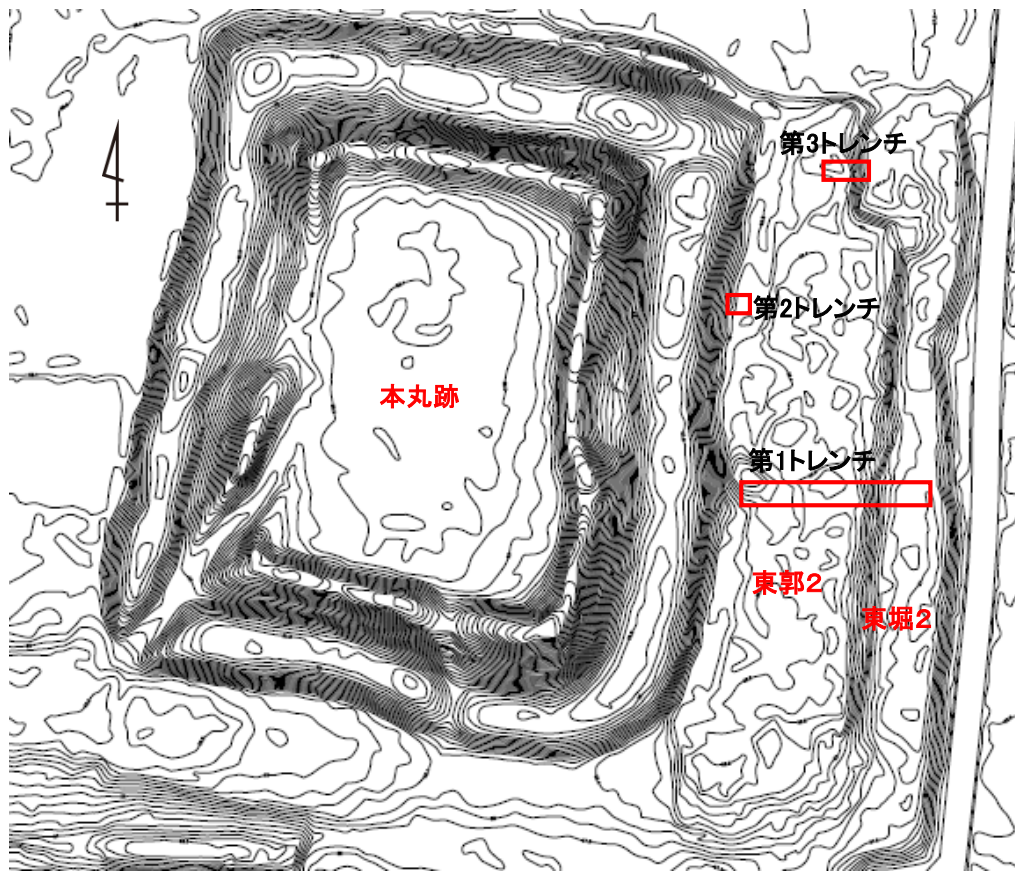
東郭2土塁の断面



東堀2の断面



国土地理院 米軍撮影航空写真 1948



平成29年度 児山城跡調査位置図



第3トレンチ(南西から)



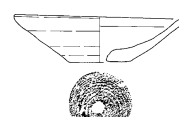
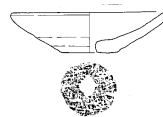
第2トレンチ(南東から)



第1トレンチ(南東から)

【堀から出土した遺物】

宇都宮一族系の上三川城(大町遺跡2号溝B地点)、石那田館出土のものと同形状や大きさが類似することから16世紀前半頃のものと考えられます。これらの土器は底面には、焼成後に0.7~1cmの孔が穿たれています。



0 10cm

出土遺物実測図

○参考文献

- ・栃木県教育委員会 1982 『栃木県の中世城館跡』
- ・今平利幸 2001 「下野における中世土師器皿について」 『栃木県考古学会誌』第22集

児山城跡発掘調査現地説明会資料 (2018.325)
 編集・発行 下野市教育委員会文化財課
 〒329-0492 栃木県下野市笹原26
 Tel 0285-32-6105
 bunkazai@city.shimotsuke.lg.jp

